

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第27回

洗濯物が干してある光景

小高い丘。背の低い草が広く茂っている。

そこに物干し台があり、渡してある竹竿にシーツ、タオル、丸首シャツ、靴下などが干してある。どれも白色。向こうの夏空に浮かんでいる白雲より輝いているそれらは、風を受けて少し揺れている。

見ていると、温泉に浸かったときみたいに全身が落ち着きはじめ、やがて充実した感覚になってくる。今なら「このう」と言ったりするのかもしれない。

このシーンを時々夢にみる。へこれはどこだろう。行動範囲の狭い子どもたちのころに見たように思うから、行方市内だろうな。今はもっぱら自動車移動でよそ見できないから、なかなか探せないんだよなあ。それに今の時代は、よその洗濯物に注目するなんて行動、歓迎されないでしょ。あつ、昔だってそうかな。などと、夢の中で独り言を言うのがお決まりだ。

最近、思うところがあり、定年を控えたナースの方に出会うと次のキャリアとして占い師になることを勧めたりしており、だからか、これまで私自身を占うことには興味がなく、雑誌の隅に載っている星座占いをちらり横目で見る程度だったが「洗濯物が干してある夢」は夢占いでどんな意味を持つのか、調べてみたくなった。洗濯は、生活の汚れを落とし、次に使うために干すという前向きな行動であって、よく

ない結果は出ないだろう、と推測して。実はよくない結果に影響されて落ち込んでしまいそうで、これまで自分を占うのは避けてきた部分がある。

果たして、夢占いの結果は「運氣良好」で、胸をなでおろした。

ここまで読んで、人の夢の話ほどつまらないものはない、だったかもしれない。と、胸をなでおろした。話。天日を浴びて気持ちよさそうに揺れている洗濯物が急な雷雨でびしょ濡りになってしまったら……と不安にかけられることがごくたまにあり、それは矢野顕子さんの曲「ふりむけばカエル」を聴いて立ち直ることにしている。ちなみにカエル（筑波山遠足時に買った陶器の）には、いつも「どうにかなるさ」と励まされているのだが、その話はまた別の機会に。

何度も夢に見る冒頭の光景は、もしかして昭和の洗濯洗剤（粉状が主流だった。ニュービーズとか）のテレビCMで見たものだったのかもしれないです。

小林 光恵さん

色や形を考慮しバランスよく干した洗濯物を、家の中から窓越しに眺めるのが好きです。



行方市出身。つくば市二の宮在住。Tシャツやトレーナーの袖に竿を通して、Tの字に干す干し方が好きです。両手を広げている感じがいい上に丸襟が伸びにくく、わきのあたりも湯きやすいと思うから。でも、面倒だしたくさんは干せないの、結局はハンガーを使ってしまいます。市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム ②⑦

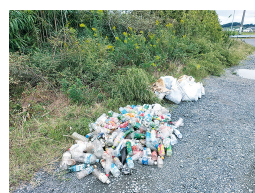
今回は、市民の皆さんにご報告があります。私は、協力隊に就任した当初から、市内のごみ拾い活動を休日を実施してきました。せっかくやるなら目標を立ててやりたいと思い、市内の霞ヶ浦沿いと北浦沿いのごみ拾いを進めてきた結果、7月4日（土）、二湖の完全踏破を達成しました。

霞ヶ浦は、約26キロメートルを74間で踏破。北浦は、約23キロメートルを38日間で踏破しました。その他、市内の小・中学校と高校周辺、市内のお祭り会場付近などを合わせて合計で125日間、市内のごみ拾いを実施しました。振り返ると、ある地区ではごみの量が多すぎて、半年近く地区内のごみを拾ったり、夏は暑さの他に木々のとげや虫と戦ったりと、大変なこともありました。それでも、霞ヶ浦と北浦の雄大さや、歩いているからこそ出会えた景色、そして何より地域の皆さんから激励のお言葉や差し入れをいただくこともあり、ごみを拾う時間が、自分の心の中を整理する時間となっていました。

私の任期も残りわずかではありますが、一つ行方市に恩返しできたのかなと思っています。今回で、ごみ拾い活動は一区切りとさせていただきます。



▲霞ヶ浦大橋付近



▲多くのごみを拾うことができました。



▲行方市の湖側をごみを拾いながら、歩き切りました。時間はかかりましたが、何とかやり遂げることができました。



▲北浦大橋付近



▲歩いてきたからこそ知ることができた施設もたくさんありました。



▲佐藤 晶 隊員

【令和5年11月1日～現職】新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施。

す。任期の10月末まで全力で活動していきますので、よろしくお願ひします。（次号は、大橋隊員が担当します。）